



目次

2025年度スローガン

指針を持ち ビジョンを掲げよ！

P2 地区例会

P3 新会員紹介
広報フェスレポート

P4 ピックアップ会員さん

ありがとう 紙の広報誌

これまで長きにわたり、紙の広報紙を手にとっていただき、本当にありがとうございました。色々な所へ取材に行き、皆様との繋がりを実感することができました。

時代は変わりますが、お伝えしたい「想い」には変わりはありません。来期からはSNSという新しい舞台で、より鮮やかに、よりリアルタイムに、私たちの今をお届けします。

「紙」が繋いでくれたこの絆を大切に、デジタルの光に乗せて。これまでのご愛読に、心から感謝を込めて。ありがとうございます。 広報委員一同

2026年1月末会員数

過去の活動は

ここからチェック！

203名/ 2025年度末
目標 230名

広島県中小企業家同友会
東広島支部 会報誌
2026年 2月発行





新しい年が明け、1月10日に「支部新年互例会」が開催されました。会場の西条HAKUWAホテルには43名が集いました。大きな災害や事故から始まった昨年に比べ、今年は穏やかな年開けとなりました。今回はお昼時からのスタート。美味しい昼食を囲み

ながら、和やかな雰囲気では進みます。AI元年と言われる今年。「各業界とAI展望」と題し、AIの活用と脅威について数社の会員の方が語られました。便利になる一方で仕事が奪われるかも?という不安もありますが、最後に行き着くのは、やはり「人にしかできないこと」や「感情」、そして「企業の理念」の大切さ。どの業界にも共通する深いお話に、参加者一同、真剣に耳を傾けていました。

後半は、「今年の一文字」。会員全員が色紙を手し、新年の意気込みや目標を力強く書き込みました。14時前の締めとなり「早めに帰れるかな?」……と思いきや、そのまま会員のお店へと2次会に流れ込み、気づけば夜まで! クレイジーな一年の始まりとなりました。



東地区例会 自己自社紹介15分チャレンジ

記) 高倉

【1月】



(有) 総合サービス
土井 尊徳



(株) ハートブランド
西本 伊織



(株) イワモト
岩本 孝

東地区例会で実施している「自己自社紹介15分チャレンジ」は、参加者が自社の取り組みや想いを共有し、互いの理解を深める貴重な機会となっています。

1月・2月の例会においても、各発表者がそれぞれの業界背景や実務経験、社会との関わり、自社の強みや価値観などを交えながら発表を行い、単なる会社紹介にとどまらない、学びと気づきの多い時間となりました。

【2月】



(有) 総合保険サービス
八幡 翔太



(特非) CLEAR
折川 広之



(有) カーブハウジング
内田 啓太

業種や立場の違いを超えて仕事への向き合い方や考え方に触れることで、新たな視点を得る機会にもなり、参加者同士の理解と信頼関係の深化につながっています。

今後も本企画を通じて、互いに刺激し合いながら成長できる場づくりを継続していきたいと感じさせる、非常に有意義な例会となりました。

11月 西地区例会

記) 菊田



西地区例会では、Googleに認められた東広島のエキスパート、(株)コトブキソリューションの黒川氏を講師に迎えました。

AIによる文章作成や分析、補助金申請の効率化、さらには即座にホームページを立ち上げる実演に、会場からは驚きの声が上がりました。グループ討論のまとめもAIで瞬時に作成して発表されるグループもありました。まさに「即・実践」の可能性を体感する場となりました。



黒川氏は「単調な作業はAIに任せて効率化すべきだが、自分の能力を超えることまで頼り切るのは良くない」と強調。事業拡大などの重要な局面では専門家の意見を仰ぐべきであり、AIを賢く使いつつ、最終的な判断は人間が行う大切さを学びました。

新会員紹介



会員名：宮川 伸
(みやがわ しん)
会社名：明成

事業内容：総合工事業（公共事業・造成工事・解体工事名など）

趣味：料理・仕事
一言：皆さんどうぞよろしく
お願いします。



会員名：田村かすみ
一般社団法人Dynamic Heritage

事業内容：シェアオフィス
レンタルルーム・講座など

終戦後西条駅前が開業した蔵田呉服店を改装し、一般社団法人Dynamic Heritageを立ち上げ「女性のためのシェアオフィス来音Kurune」を美術館前で営業しています。
東広島市と関西の二拠点生活のなかで、懐かしい方々や初めてお会いする人との出会えることは、人生最終ラウンドのごほうびです。
女性だけではなく、男性も、ぜひ遊びに来てください。

2025 広報フェスレポート③X（旧Twitter）運用のポイント

記) 亀井

2025年8月、広島県中小企業家同友会で初となる“広報に特化したセミナー”が開催されました。テーマは「小さな会社の未来をひらく」。採用戦略、SNS活用、AIの活用術、インバウンド対応など、全10セッションを通じて「伝える力」を高めるヒントが惜しみなく共有されました。セミナーでは、SNSを使った情報発信や写真撮影のコツなど、明日から使える実践ノウハウも多数紹介。なかでも注目を集めたのが、X企業アカウントの効果的な運用方法です。

- プロフィールで“このアカウントが何を発信するか”を明確に約束し、その約束を守る
 - ↳ 最初に期待値を提示することで、フォロワーが増えやすくなる。
- ニュースや話題性のある情報をポストする
 - ↳ 自社ネタだけに偏らず、役立つ情報を提供する姿勢が信頼につながる。
- 積極的にコメントし合い、コミュニケーションを育てる
 - ↳ 双方向性の発信が“ファン”を生む。

こうした工夫によって、“刺さってほしい人に刺さる”アカウント運用が可能になると解説されました。中小企業にこそ、いま「自ら発信する力」が求められています。その力を実践的に磨ける広報フェスは、2026年の開催も予定されています。次回もどうぞご期待ください！



🐶🐱 我が家のアイドル 🐶🐱

武林ピピちゃん



実森ひよりちゃん



松田家親戚のてんてん



自慢のペット募集中
掲載希望の方は
下記QRコードから！





東広島市豊栄町で生まれ育った高橋さんは、創業78年「豊北木材」の三代目です。

建築に関わる事務の勤務を経験した後、33歳で「後悔しない道を選ぼう」と決意し、

代々続く家業の世界へ飛び込み、入社当時の高橋さんを突き動かしたのは、

飛び込み営業から始め、独自の台帳をもとに毎月手作りのニュースレターを届け続けました。

現在も欠かさず更新しているブログは、単なる発信ではなく、自分たちの想いを知ってもらう

ための大切な場所。

こうした積み重ねと努力からお客様からの問い合わせがあるそうです。

かつては骨組みを大勢で一気に組み上げる木造新築が主流でしたが、

時代の流れとともにその数は減少。

かつての当たり前が通用しなくなる中で、高橋さんは「木造新築が

減っているからこそ、今ある家を大切にするリフォーム」



製材業をルーツに持ち、木を知り尽くしているからこそ古い家の特性を活かした確かな

修繕が可能です。

「お客様と対話し、長く愛される関係性を築きたい」。時代の変化を冷静に受け止めながらも、

木の温もりを守り続ける高橋さんの挑戦は、今日も続いています。

木の香りがして、薪ストーブの暖かさに触れ、友達の家遊びに来たような時間を過ごす

ことができました。